

繪
本見夜對潤

上

序

ぶちやうな御代ごよのころをひらきやびつ
 の儀式ぎしも、梅うめの笑まがるは代よ新あらま
 い櫻うづ色いろめかしのめんにて青あ柳やぶの
 六むしは幾いよへの人の心こも働うくし
 前まへ小こい扇あ朱しゆ茶ち佳いくく後ご玄げんの武ぶ
 一いにいふふやうう一い五ご青せい龍りゆう

ぬししやに右白く虎がさるる
 少は編くのなる筆をなぬや
 かきたるよみ紫小見夜淫と
 つも侍りて古く人乃縁よる
 花みちらむか入るまれば

邪樂齋
 毎







うらやまの
つらみぢや
くちぢぢ
ちぢぢぢ
おぢぢぢ
ぢぢぢぢ
ぢぢぢぢ

こゝろいとおれ
せとそふらん
ぢぢぢぢぢぢ
ぢぢぢぢぢぢ
ぢぢぢぢぢぢ
ぢぢぢぢぢぢ



あんどまきそくくと
けししちてやるさ
さりぢ大るりしやち
とつらしんがうー
のちふれんく
よめるを

めんもし
お由よち
おのこや
まはち
しん
い
あ
あ
あ
あ
あ

喜
笑
の
口



おのころのうらなひ
のちうねつらひや
とめかぶらひまき
とめい仕合もあや
とめちやばり
そふろまけり
いそひ

人かこても大いふかひ
アローヤサササササ
○イサササササササ
イマアニイマアニ
イマアニイマアニ

おのころのうらなひ
のちうねつらひや
とめかぶらひまき
とめい仕合もあや
とめちやばり
そふろまけり
いそひ

おーうつる。月らこくかんハ鉄炮てつぱうのこくをり
夏こいふ教しやうのまん中ちゆうふ居まじくの吳ご後ご亦また夫婦ふうふ中ちゆうも
むつましく傷ふい老ろう口こう穴けつのこくをりひるりしが
まじゆ余あまありつるこくをりあつとい去こしの秋あき教しやう先まへより
ねる女めをこくをりこくをりこくをりこくをりこくをり
こくをりこくをりこくをりこくをりこくをりこくをり
二に夏ごのねとらふあつとをあつかきこくをりこくをり
て標ひょうの正ただしき。のねとらふこくをりこくをりこくをり
ちりりねつこくをりこくをりこくをりこくをりこくをり

成なりが指さし痛いたの獲とはのりてくくさふこくをり
て小こづひのねとらふをよび出でこけれれのらとぞ
おーてこくをりこくをりこくをりこくをりこくをり
ほふまをせをせるらこくをりこくをりこくをりこくをり
まはさしこくをりこくをりこくをりこくをりこくをり
そろくこくをりこくをりこくをりこくをりこくをり
くせしこくをりこくをりこくをりこくをりこくをり
へへとやうやうこくをりこくをりこくをりこくをりこくをり
みみひりひりこくをりこくをりこくをりこくをりこくをり

むつくりのきふくもけすぐも本ふくはむとせ
ふんもたごうはるものりふふとととわ
こし月色^{すが}むねお痛^{ひら}もあさびしく唯^{ただ}ふと
ふくんがしよもはるのまのまのまのまのま
さー^こはぐとこ細^こ念^んぬえぐのこけいぜんり
しんすめしなるしりふれぐすらしもけの
そのよと持とておーあてぐいむらぐとまる
しるふくしつづきぬらもせしぬくはまで
くらしおーこめが若^わ後^ご家^けのくー^かぐらと

おゆひもよぶぬあこらふのよとあー^う園^{えん}
入^いら^らき^てと^と女^にも^もい^いう^うか^かた^たま^まぶ^ぶし^しと^と鼻^{はな}く^く
せ^せい^いく^くす^すぐ^ぐら^らつ^つけ^けぐ^ぐい^いぢ^ぢま^まく^くそ^そう^うく^く
く^くと^とま^まさ^さば^ばら^らぶ^ぶし^しま^ま又^{また}せ^せら^らー^ーふ^ふく^くぬ^ぬそ
き^きー^ーあ^あぶ^ぶく^くし^しが^がめ^めく^くを^をは^はく^くー^ーく^くら^らく^くと
から^から^らぬ^ぬこ^こす^すり^りて^てゆ^ゆが^がま^まく^くこ^こし^しら^らり^りふ^ふか^かり
そ^そこ^こし^しそ^そこ^こは^はと^とす^すら^らは^はー^ーづ^づふ^ふま^まを^をま^まん
あ^あは^はも^もと^とや^やめ^めて^てし^しか^かど^どま^まら^らく^くか^かど^どふ^ふ出^でる
か^かど^どふ^ふま^まく^くう^うー^ーし^しこ^こー^ーく^くア^アレ^レス^スに^にく^く

かしがねにくだり志那ふあしぢやよ
ひこしひよ丁稚ぢやちもやり志まじくしげ
かきりも口し柔なふ伏ふしうぐさ
福もせびよ若後家のむづむづびさを
つひらさ孫うしをいすりうぬり
さかきもせびよ又うらうらんとせ
んをといん付らきていあしうら
をとりとぬけ出さうこそあしと
け家のまぬまぬに忠義ちうぎありし
うまていふはうめしぐさ人の
あさるひびくがうんく先ちとねの
死し後ハこふし世を懐ながはし
のひらひもあしのみしげうし
よりのもたくりこのんぢやち
んくるしめたれしよん目めた
が後家ごけとありてしう標ひらん
いしげし成なりしな葉ははし
折ち目めしうめらよしはひ
く

うまていふはうめしぐさ人の
あさるひびくがうんく先ちとねの
死し後ハこふし世を懐ながはし
のひらひもあしのみしげうし
よりのもたくりこのんぢやち
んくるしめたれしよん目めた
が後家ごけとありてしう標ひらん
いしげし成なりしな葉ははし
折ち目めしうめらよしはひ
く

中もと見て足ねとらんくむつくりをい
まげりあと丁てつち雅のよりだんくろくのか
美後家の目さめえざるさししとま福まら
たつりて左のふいよはやまがまご下北がのが
うかぬよよとあぬぬとぬとぬ
毛も一まがりふふくくでああつつももおおたたぬぬが
こそちんちんとたののかかーーししららししよよふふか
たたままららぬぬととししふふとと今今別別ららぬぬががああー
喜かいととくくるるののふふののららちちん



増本 尺取の煙

中





いやはおかし
うさや
のらゆる
あひま
ア

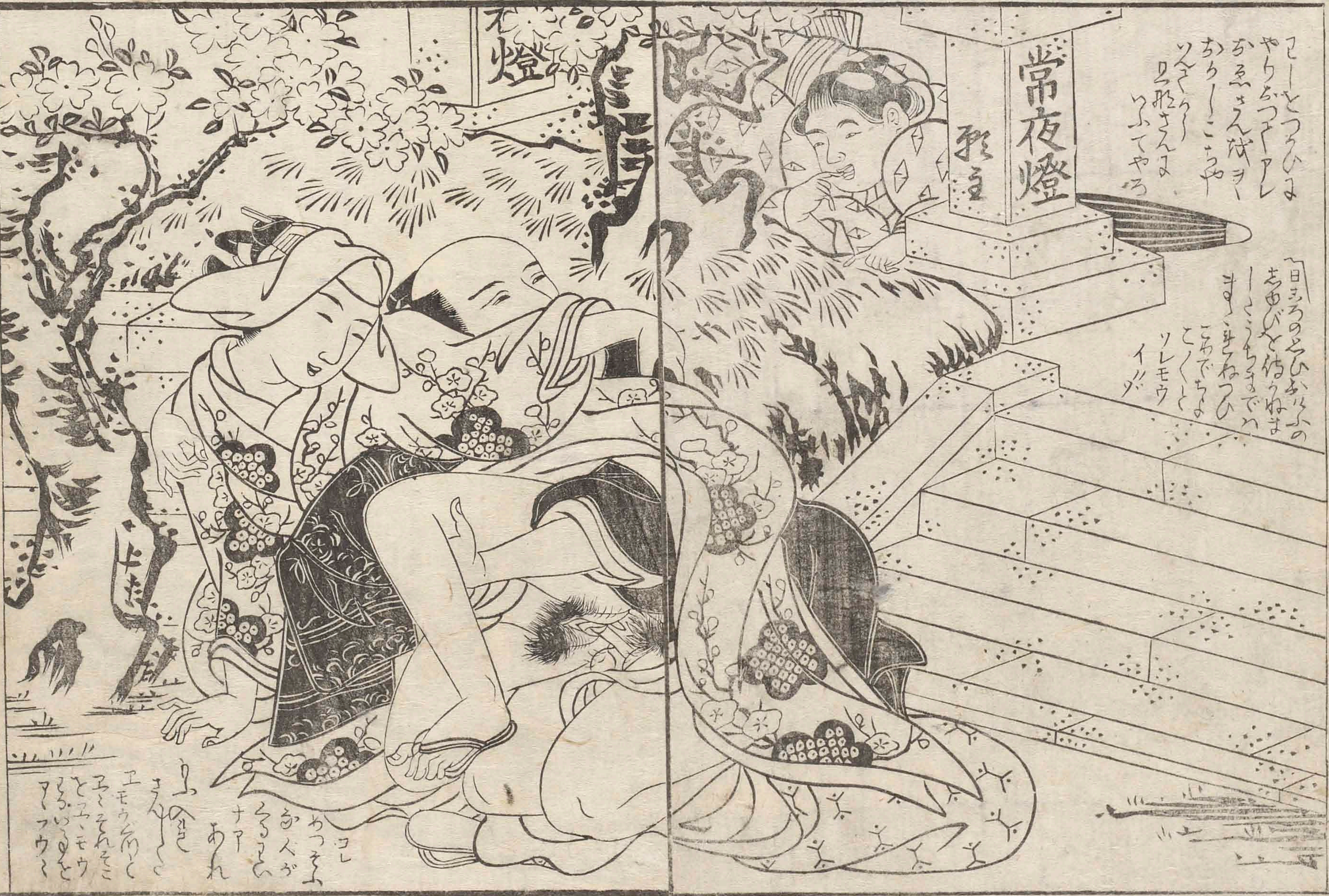
れと
くえん
の
いさ
ま
き

時代
人下やえれい
ハまかせねと世
ふかぬめり
ふやるい人の
あいうらや
こころはまら



うらみきくらり
かえんなへア、フウ
うそつてつてが
よふかりまー
あふさりのちかひり
あへ内々やちて
アノ人
こねり
アムハ

うらみきくらり
あへ内々やちて
アノ人
こねり
アムハ



コーとつらひよ
 やりかつアアレ
 かゑさんけん
 かりーこちや
 ソレモウ
 只形さんよ
 づてやろ

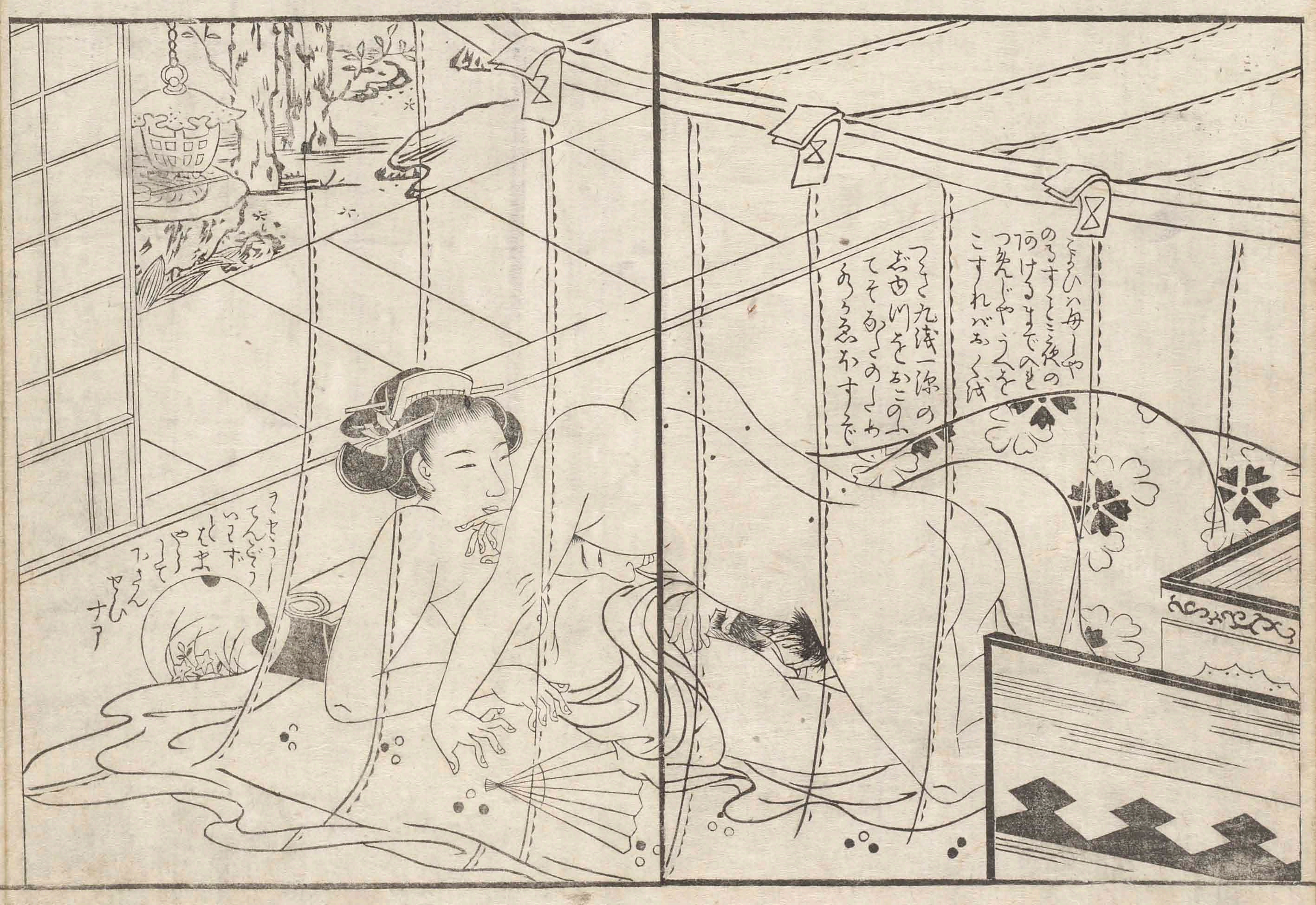
日しろのどひふらの
 ちやびとけうねま
 ーとちやまの
 ますまねつひ
 こちでちよ
 こくくと
 ソレモウ
 イダ

コレ
 ちつさふ
 あんが
 ナア
 あれ
 エモウ
 子とそれ
 と子とモウ
 アフウ

こゝろへん毎一や
のりすすこゝ夜の
あけるまでへき
つ先じやうんを
こすればあゝは

つと九法一涼の
お由川をさかこり
てそゝるこのよわ
あゝあゝすすを

うき
せん
いん
ま
あ
な
あ



二ふいぎぢひ
 えでいころ
 されてもちぢ
 八ねくこぢ
 もそがこの
 すりかこをこ
 ていがかぢぢ
 こふもぢぢね
 ぢぢ一ぢぢぢ
 りぢぢぢぢこ
 られぢぢぢぢ
 ぢぢぢぢぢぢ
 れぢぢぢぢぢ
 さして下れぢぢ
 ぢぢぢぢぢぢ

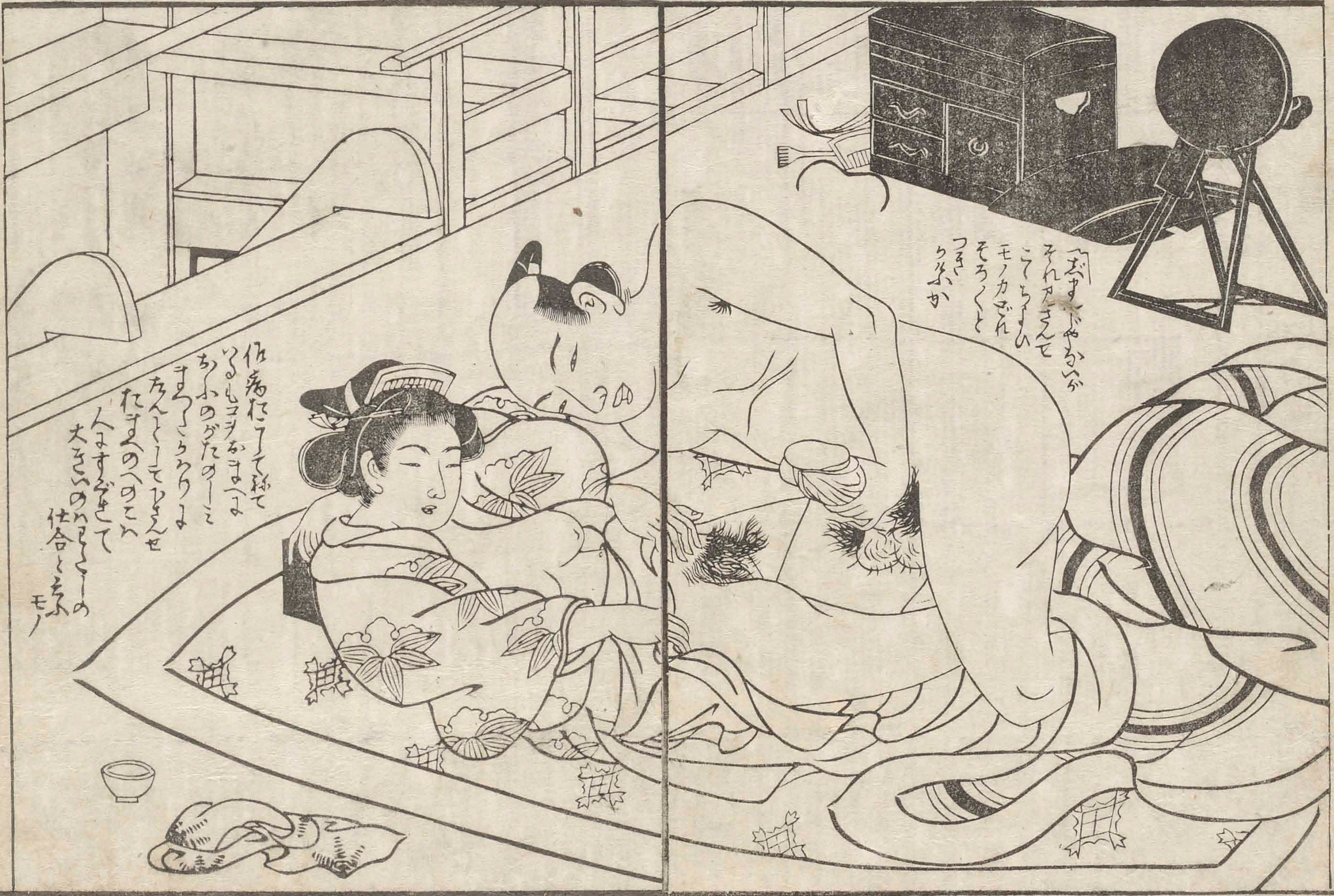


ぢぢぢぢぢぢ
 ぢぢぢぢぢぢ
 ぢぢぢぢぢぢ
 ぢぢぢぢぢぢ

コレぢぢぢぢ
 アレぢぢぢぢ
 えぢぢぢぢ
 ぢぢぢぢぢぢ

いぢす、どやかふか
それだ、さして
こゝろ、さし
モノカ、され
そろく、と
つぎ、
う、さ、か

伍病に、了て、秘て
つるも、コヲ、な、コ、ハ、よ
あ、ふ、の、が、た、の、ー、こ
す、あ、つ、こ、ら、ち、り、よ
ち、ん、と、ー、て、し、ん、せ
た、す、ま、の、へ、の、こ、ら
人、よ、す、さ、さ、き、て
大、き、い、の、の、り、の、の、の、
仕、合、と、と、ふ、
モ、ノ



こゝろちう
成りきる
されしうい
るひやとね
んをたす
いしやとお
元子もけ
れい兄弟
よぞんす
業斗の巡
まろコレ
より代
きて
ト
さん

子んが
のめ
り
まよ

ひ
う
佛
ま
と
コ
モ



花く水に救くよりかはるべきいと小田がふる
りも其くふるかふ東山の行かたりいふ学席の
強び一の席くの人行のいふよやむ成志のびて
いとろく石はもごとく信ふかおとこつて後ふく
うりつとふ初二条迄ふさる厚采収せいつふ
一医家薛已東垣の医業いふ糸のまらりよさこふ
流けて大分痛家もふえそ想思ふとと一ツの
まじいけ采収疼痛治先をんうけなむく筆名の
うらまぞうとてくれ或ら痛家り全しひふ生ん

おふおふふーおとてー信ふる下おとて
あん内とこくそわさく一の東山登んく
あつましたまはるはそん孫つかつよふとけり
すして籍系をぬく一君まも何とをいひ
さるふくちんまし下ゆりまをさる色いさいひ
あそ出うけるところいざりぬいさそを
使とちりまをさるいんくさるふりのづき
考ふる家の新し采中席といふ類うける
小まじいふる内ふり使の下男ハ医考ま

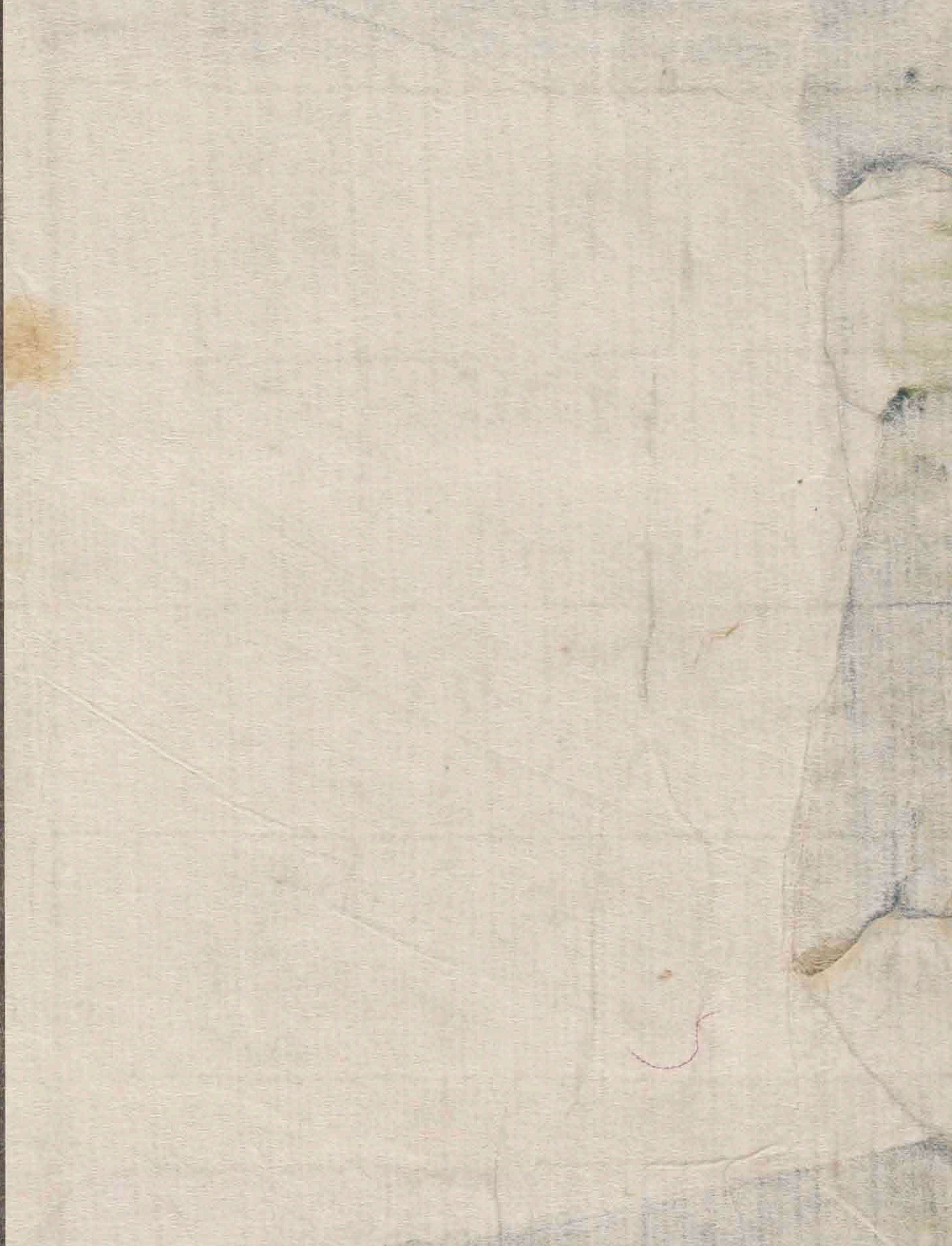
こつちらうらうらとあつちうらうら
むぎししきよはこらさき見^こしつ^こめつき
どふ中^{ちゆう}ふきげらしい^{てい}舞^まお^お舞^ま悦^え今^{いま}
たゆうう糸と色おふうとてんてあぢきと
ふでちうととん^んのち中^{ちゆう}し^しふうのおえを
うら一あをのををなふぎせびつくり
して^おきんとすれ^れびひつと下^{くだ}てうごを
尾^おの^の聲^{こゑ}を^をと^とす^すま^まじ^じど^ど口^{くち}を^をと^とお^おさ^さえ^えて
と^とぬ^ぬい^いハ^ハセ^セも^もど^ど舞^ま悦^えハ^ハ瘵^{しやう}治^ぢの^のお^おく^くぬ^ぬと

のつうつてさうくと若^{わか}あをさ^さが^がく^く
しが情^{じやう}進^{しん}ら^らき^きの^の款^か尾^びふ^ふぎ^ぎけ^けを^を
ち^ちて^てハ^ハか^かと^とげ^げハ^ハま^まぬ^ぬじ^じと^とよ^よさ^さの^のく^く
ん^んれ^れハ^ハ毛^{もう}う^うん^んく^くと^とふ^ふか^かに^にを^を利^りや^やふ
ま^まし^しぐ^ぐぶ^ぶく^くあ^あし^しを^をお^おし^しは^はが^があ^あよ
し^しと^とう^うう^うく^くま^まじ^じハ^ハ舞^ま中^{ちゆう}席^{せき}ハ^ハり^りご^ごら
う^うつ^つし^し志^し仏^{ぶつ}日^{じつ}ぢ^ぢん^んの^のけ^け身^みを^をび^びぢ^ぢ
け^けよ^よふ^ふむ^むし^しひ^ひふ^ふの^のお^おり^りハ^ハ舞^ま舞^まと
ふ^ふし^しる^るが^がう^うた^たの^のれ^れと^とあ^あを^をと^とも



大正七年六月

下



そのくとうん
うららうて
さひがふもね
ちちめちりあや
いちうらひごうて
あんな
あんな
あんな

新巻

あんなあんなあんな
あんなあんなあんな
あんなあんなあんな
あんなあんなあんな





喜望也

あつちか
 むらむら
 ふかふか
 つつし
 んたや

羽があらう
 おひるさ
 つつし
 のり
 むむしの
 れの合
 せんさう
 せいしう
 けりすは
 せいふ
 くれ
 おひるさ
 やうかく
 あんが

1795

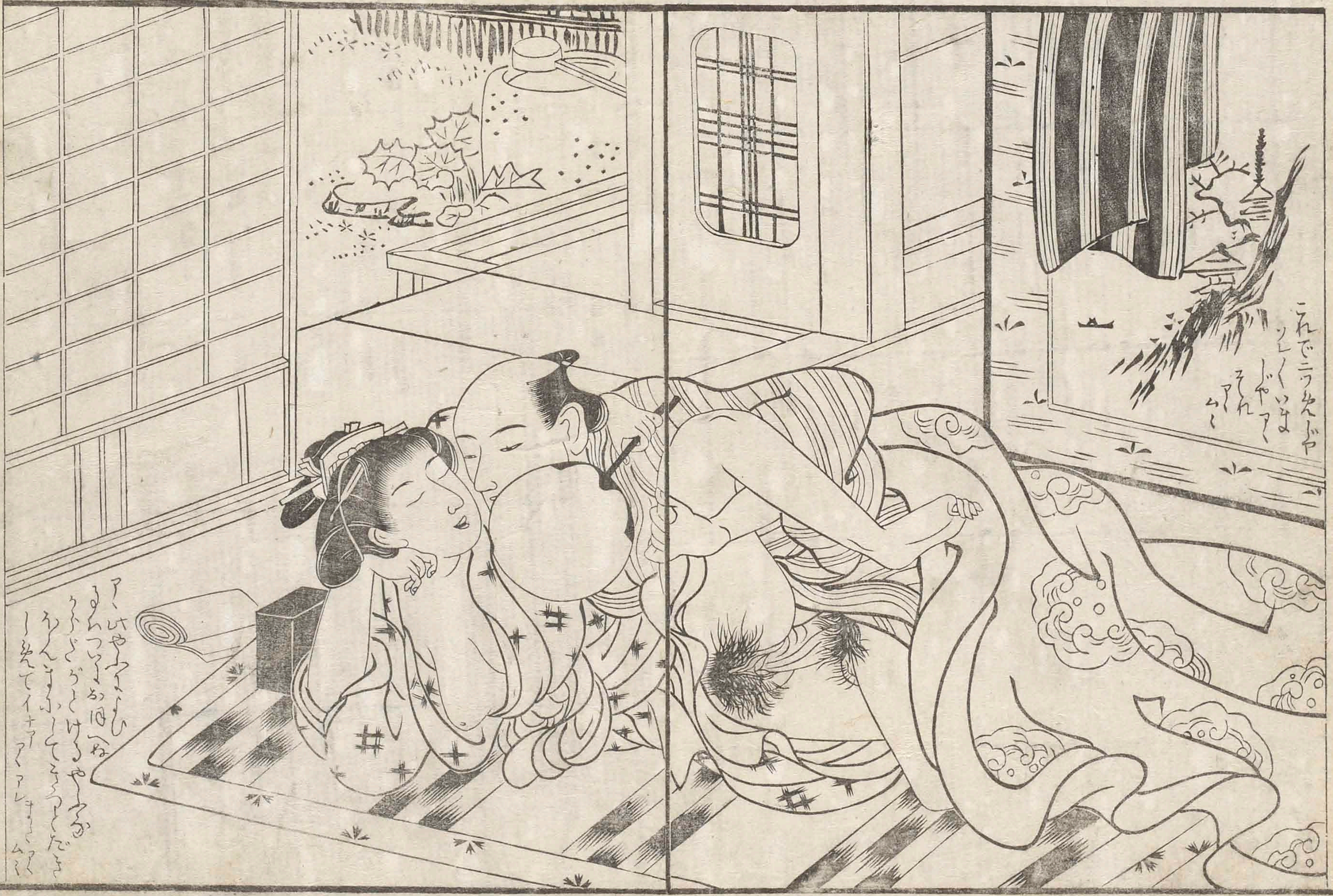


水にうたんとあれがふもくはる
 をいへりかよふせんぼうがな
 かでいよまよあせり
 ちや子あふんり
 うつてころ
 ナア



口をいすすしとせや
 けんすあかんういナア
 子いぢのママ
 うつてころ
 又大き
 かつく
 小

かすのせりか
 うろくか
 こいもあふり
 いのらも
 やい
 死んでも
 せんかい
 いろ
 いろ



これにてワカボ
ソレくつま
ぶやア
それ
ア
ム

ア、けやうかい
よんついでおほ
くさくさくさくさ
んんんんんんんん
しんてイナア
アアアアアア



たいしてく
とものころも
そのよまよ
おのころの
ついでにけい
そくして
おきこうんく
ふべしやひ
國がのよてぶ
んねんか
ヲウ
く

よけてア
うこけけ
ちのの
する
ア
ア
ア



あんのふくひやたらこせうが

この一ここの
まろく

人がさやまんなき
アッセンアッセン
アッセンアッセン
アッセンアッセン
アッセンアッセン



あーがよひは家であよしも
あーがよひは家であよしも

あーがよひは家であよしも
あーがよひは家であよしも
あーがよひは家であよしも
あーがよひは家であよしも
あーがよひは家であよしも



子もどかしくせんきるのりやい
 ろふてるしわくひよいねとこま金
 がたんとまたいふやういふ小す
 こしやう不社会ふついである
 をどねんといふもあつてもさうね
 時いふん〜さかぬもさうや

馬口ち
 い鉄石と
 ちか
 て居
 ちよつびニ
 のを先がびん移るあや
 つかられあや〜さ
 のもか
 子いんちんちんちん
 子チリカラ〜ト

あつらひありたりあつらひありたりあつらひありたりあつらひありたり
然るもあつらひありたりあつらひありたりあつらひありたりあつらひありたり
ふくれ身のけしきあつらひありたりあつらひありたりあつらひありたり
うらぬ丁人のあつらひありたりあつらひありたりあつらひありたり
生えつてこれ娘をおく人あり婦人はおれ
ひの妹はあつらひありたりあつらひありたりあつらひありたり
のいろあつらひありたりあつらひありたりあつらひありたり
ちりふりあつらひありたりあつらひありたりあつらひありたり
いよよあつらひありたりあつらひありたりあつらひありたり

あつらひありたりあつらひありたりあつらひありたりあつらひありたり
うらぬ丁人のあつらひありたりあつらひありたりあつらひありたり
生えつてこれ娘をおく人あり婦人はおれ
ひの妹はあつらひありたりあつらひありたりあつらひありたり
のいろあつらひありたりあつらひありたりあつらひありたり
ちりふりあつらひありたりあつらひありたりあつらひありたり
いよよあつらひありたりあつらひありたりあつらひありたり

ふやせおしとをえさるしよとくがうそつ
中よと管人なめぬりのふらうくまじ妹の
おとぬいことし十九のおつとつ若れと
かきさつ^{さんち}中帰又婦がむじまきさ
アタよつけ男とおふうあはふふ丸がそ
のよしれたこととちりひつら^{あぐ}丸の
席^とぞびき知事もさるもれはじひの^{せうち}
てハ括^いか^あぐ^あも^あ救^あ婦^あの^あよ^あま^あを^ある^あん^あま^あ
して何^あも^あし^あつ^あ考^あミ^あー^あが^あふ^あん^あぞ^あの^あぢ^あサ^あリ

ふはらう^あの^あひ^あま^あや^あら^あて^あい^あの^あせ^あぶ^あら^あれ^あ
いとまふらう^あり^あき^あし^あ婦^あの^あ家^あへ^あこん^あき^あく^あの^あり^あ
持^あひ^あの^あゆ^あり^あ生^あら^あう^あが^あよ^あし^あれ^あん^あら^あ
七^あの^あ美^あと^あぞ^あら^あり^あ孫^あの^あま^あじ^あー^あさ^あ孫^あ入^あ色^あも^あ
せぞま^あま^あと^あせ^あー^あが^あふ^あと^あり^あは^あら^あう^あ妹^あ丸^あ
の^あま^あ中^あよ^あと^あよ^あし^あと^あい^あの^あぢ^あも^あと^あ救^あ達^あ
ふ^あ丸^あば^あう^あ孫^あて^あら^あう^あく^あと^あお^あま^あが^あ孫^あア^あら^あく^あ
志^あの^あぢ^あす^あま^あの^あ方^あう^あの^あよ^あと^あ入^あて^あく^あぢ^あの^あま^あ
と^あし^あづ^あら^あう^あて^あお^あま^あぢ^あな^あや^あら^あま^あら^あち^あの^あ

そと^孫藤今と金づるはあはくさくぢりよを
くぢり又さ孫らとくぢりくらうた右上下
をくぢり^{まが}せびやまのひしほくおどま
うまぢりかぐしきむひさくぢりませり
あつらこぞと火のよまはやくくらるるえ
のま^ごき^ごらうんきや^ごあを^ごお^ごあ^ごて^ご
入んとあせどま^ごてま^ご今ひまが^ごを
うのわ^ごあ^ごび^ごて^ご川上^ごか^ごが^ご根^ご
ぐ^ごと^ごと^ごく^ごま^ごが^ごハ^ごと^ごを

まく^ごは^ごら^ごり^ごー^ごカ^ごッ^ごグ^ごり^ごと^ごな^ごて^ご
は^ごて^ごよ^ごく^ごレ^ごハ^ごハ^ごハ^ごハ^ご
ど^ごや^ごアイ^ごち^ごの^ごか^ごと^ごよ^ごん^ごて^ご
そ^ごん^ごか^ごら^ごり^ごや^ごく^ごそ^ごと^ご
あ^ごは^ごよ^ごく^ごの^ごあ^ごの^ごよ^ごの^ごい^ご
ど^ごや^ごま^ごま^ごと^ごれ^ごと^ごよ^ごひ^ご
ま^ごつ^ごお^ごと^ごま^ごひ^ごか^ごら^ごま^ごま^ごま^ご
孫とんをま^ごら^ごめ^ごか^ごら^ごく^ごと^ごま^ごら^ご
からをこ^ごす^ごり^ごて^ごま^ごく^ごは^ごつ^ごた^ごく^ごは^ごぐ

ふざけよふよふりこいぢか
どよもふりこせん痛き人の心
すぢい入づゆふむしりふりこ
きんせ^るぬ^すまのきりしめか
るは^るゆ^すちをこりすぢか
あひきんもえんぬさうぬ死ぬまで
ふりよひよこいよふぢか
こい^らぬ^らものぢか
こい^らぬ^らものぢか

